

協 同

[特集] 個人情報管理の徹底に向けて
組合員からの信頼を守るために

2021
Sep
KYODO 9



タッグ!兵庫の農業人

新たな栽培方法により、
山の芋の再興を図る

FARMER × JASTAFF
山内 大地さん
藤田 謙介さん

詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中心!

▶ YouTubeで [兵庫の農業・農協発信ch](#) 検索



今月は **JA丹波ささやま**

新たな栽培方法により、 山の芋の再興を図る

山の芋の小丸種芋栽培について話す山内さん(左)と藤田さん



生産者

山の芋の小丸種芋
生産者

山内 大地さん

丹波篠山の特産品が全国的に
知れわたることを目指して、小
丸種芋栽培をはじめ新しいこと
に積極的に取り組んでいき
ます!

JA職員

JA丹波ささやま
営農経済部 営農指導課

藤田 謙介さん

山の芋の生産拡大に向け、新規
栽培者の育成や経験の浅い生
産者が取り組みやすい環境づ
くりを力を入れています!また、
品質向上のための情報発信
にも注力しています!



丹波篠山市には、昼夜の気温差が大きい盆地特有の
気候と肥沃な土壌を生かした特産品、山の芋がある。江
戸時代から栽培が開始された歴史ある山の芋だが、ここ
10年間で栽培面積が半分以下となった。高齢化の影響
や、手作業が多いため労力と高度な栽培技術が求められること、種芋の確保にコストを要すること等により、生産者が減少し、新規栽培者の参入も難しい。

JA丹波ささやまでは、TACと生産者とがタッグを組ん
で山の芋の再興に向けた取り組みを進めており、営農指
導課に所属する藤田謙介さんは、7年前からTACとして、
特産物の生産拡大、品質と収量向上のための営農指導
や相談対応等を行っている。

中でも、従来の山の芋栽培方法は、前年産の収穫物
(秀品)を種芋用に確保する必要があるため、販売するこ
とができないほか、定植するために種芋を切断する手間
が大きなのが課題であった。そこで、JAでは切断せずに
定植が可能な種芋用の小さな山の芋「小丸種芋」を用い
た新たな栽培方法を導入し、普及に力を入れている。

丹波篠山市の生産者である山内大地さんは、JAや丹
波農業改良普及センターと連携をしながら、3年前から小
丸種芋を安定供給するための試験栽培を行っており、現
在までに、トレーを用いた新しい栽培方法が確立された。
山内さんは「小丸種芋の栽培を通じて、他の山の芋農家
にかかるコストや労力を減らすとともに新規栽培者が増
えることで地域活性化につながれば」と話す。

JA丹波ささやまは、山の芋の小丸種芋栽培により、栽
培面積の拡大や新規栽培者を獲得し、地域活性化と農業
生産の拡大に向けた取り組みを続けていく。

山の芋の新たな栽培方法における利点

慣行栽培

収穫物を翌年の
種芋として使用する。
定植時に種芋を
切断する。

小丸種芋栽培

種芋用の小さな山の芋を
栽培することで、
そのまま定植できるため、
労力やコストが大幅に低減できる。

